

岩手県の 土地改良



CONTENTS

- 水士里ネットいわて第52回通常総会を開催 2
- 平成21年度岩手県議会
農業農村整備推進議員クラブ総会を開催 4
- 県営経営体育成基盤整備事業増沢東部地区完工 5
- 平成21年二戸管内役員等研修会実施 5
- 平成22年度水士里ネットいわて事務局組織図 6

2010(3・4月号) No.551

発行所 / 岩手県土地改良事業団体連合会 盛岡市本宮二丁目10番1号

TEL(盛岡)019(631)3200 FAX(盛岡)019(631)3260

編集発行人 / 川邊 隆治 ■印刷所 / 永代印刷株式会社

<http://www.iwatochi.com>

みんななかよしぼくじょう(洋野町立帯島小学校 長川 瑠希)

平成21年度絵画コンクール 中学部の部金賞



水 土 里 ネット い わ て 第 52 回 通 常 総 会 を 開 催

▶ 平成 22 年度事業計画と予算などを審議

水土里ネットいわて（会長：館澤宏邦）では3月23日、平成22年度事業計画及び一般会計収入・支出予算等を審議するため、本会会議室で第52回通常総会を開催した。

開会に当たり挨拶に立った館澤会長は「戸別所得補償制度は来年度から米を対象としたモデル事業が実施される。

しかし、農業農村整備事業予算は、大幅に削減され非常に厳しい状況である。耐用年数を迎える農業水利施設は年々増え続け、更新整備は待たなしの状態だ。農地・農業用施設は食料供給力を支える基礎的な資源であり、これらの資源を良好な状態で後世に引き継いでいかなければならない」と述べた。

続いて行われた平成21年度土地改良功労者表彰では、永年にわたり本県の農業農村整備事業の推進や、土地改良区の健全



な運営と発展に寄与した役職員16名を表彰。館澤会長から表彰状と記念品が授与された。来賓として、本県選出の参議院議員 主演 了氏や東北農政局長（代理：森多可志 局次長）、県農林水産部長（代理：須藤勝夫 農村整備担当技監）が祝辞を述べ、その後議事に入った。

議長には、高橋光幸 松川土地改良区理事長を選任。平成21年度一般会計収入・支出第二次補正予算、平成22年度事業計画や一般会計収入・支出予

算など9議案が諮られ、慎重審議の結果、提案された全議案が原案のとおり可決承認された。最後に本会職員が決議（案）を朗読すると満場の拍手で採択され総会は終了した。



【挨拶を述べる館澤会長】

決 議 (案)

農業農村は国民の命を支える安全・安心な食料の安定供給という役割を担うとともに、豊かな自然環境や美しい景観の保全、地域文化の継承など、多面的な機能を発揮し、やすらぎやうおいを与えながら国民の生活を支えてきたところである。

近年、世界的規模の異常気象の発生や開発途上国の人口増加などにより我が国の食料の安定確保・供給が困難な状況に陥ることが危惧されているが、依然として我が国の食料自給率は40%前後で推移しており、先進諸国の中で最も低くなっている。

本県の農業農村においては、水田の整備率が全国平均より10ポイント以上も低く、生産コストも高い状況にある。加えて今後次々と耐用年数を迎える農業水利施設の改修が大きな問題として立ちはだかつており、これら施設の劣化が進行するままに放置されれば、農業生産性の低下や災害・事故の多発などにより農家の営農意欲が低下するなど、農業そのものが成り立たなくなる恐れがある。

このような状況の中で、農業の体質強化を図りながら、食料供給基盤である農地・農業用水等を質的・量的に良好な状態で確保し次世代に継承していくことは我々の喫緊の課題であり、水土里ネットが担っている重要な使命である。

我々水土里ネットは、この使命を果たすため、これまで培ってきた経験と技術を活かし、いきいきと魅力あふれる農村社会の構築を図り、農業の体質と食料供給力の強化に積極的に貢献していく覚悟であり、一致団結して左記事項を実現していくことを総会の名において決議する。

記

一 安全・安心な食料の安定供給や、食料自給率の向上を図るため、農業農村が持つ多面的な機能の発揮に不可欠な農地や農業用水の整備・保全並びに農村の振興に必要な施策の実現に向けて、国は十分な予算を確保すること

一 食料供給の最も重要な基盤である基幹的農業水利施設を次世代に引き継ぐため老朽化が進むこれら施設の計画的な更新と適切な保全管理の充実を実施に向けて、国と地方、自治体が多様な役割を認識し、互に協力し、地元負担を伴わない新たな制度の創設に取り、取り組むこと

一 基礎整備事業の、予算確保に努めること

一 国民共有の財産である「農地」「水」「環境」を、地域が一体となって保全していく「農地・水・環境保全向上対策」と、地域づくりの拠点としての機能を果たすべく土地改良区が取り組んでいる「二十一世紀土地改良区創造運動」への支援を強化すること

平成二十二年三月二十二日

水土里ネットいわて 第五十二回通常総会

平成 21 年度土地改良功労表彰 受賞者

1. 役員の一部

| 氏 名 | 所属及び役職名 |
|---------|---------------------|
| 安 保 好四郎 | 安代土地改良区 筆頭理事 |
| 遠 藤 幸 夫 | 一方井土地改良区 理事 |
| 帷 子 正 治 | 一方井土地改良区 理事 |
| 千 葉 基 喜 | 川崎土地改良区 理事（理事長職務代理） |
| 小野寺 弘 行 | 川崎土地改良区 理事 |
| 菊 地 寛 | 川崎土地改良区 理事 |
| 水 上 英 男 | 久慈市土地改良区 理事 |

2. 職員の一部

| 氏 名 | 所属及び役職名 |
|---------|----------------------------|
| 山 口 晴 伸 | 藤沢町 環境整備課課長補佐 |
| 佐 藤 達 朗 | 藤沢町 産業振興課商工観光係長 |
| 柏 原 一 弘 | 山王海土地改良区 総務課企画係長 |
| 鷹 背 浩 輝 | 山王海土地改良区 管理課管理係長 |
| 高 岡 良 美 | 山王海土地改良区 総務課賦課徴収係主事 |
| 菅 原 宏 昭 | 胆沢平野土地改良区 総務課係長 |
| 石 川 康 幸 | 胆沢平野土地改良区 企画換地課企画換地係長 |
| 小野寺 徳 子 | 川崎土地改良区 嘱託職員 |
| 岩 舘 正 徳 | 岩手県土地改良事業団体連合会 管理指導課事業調整主幹 |



【平成 21 年度土地改良功労者表彰 受賞者】

平成21年度岩手県議会農業農村整備推進議員クラブ総会を開催

▶ 本県の農業農村整備の展開方向を示唆



岩手県議会農業農村整備推進議員クラブ（会長：菊池勲）が主催する総会及び研究会は、3月4日県議会大会議室において開催され、参加者33名が来年



【挨拶する瀬川部長】

度の活動方針や収支予算等について審議した。

挨拶に立った瀬川純県農林水産部長は「来年度の農業農村整備事業費は縮減されたが、生産基盤の整備が遅れている本県の実情を踏まえ、戸別所得補償制度等を確実に推進するとともに、農業生産を支える基盤整備

を促進していく必要があると考えている。議員の方々にも一層のご支援・ご協力を賜りますようお願いしたい」と述べた。

総会では、平成21年度の活動状況報告、収支決算の承認及び平成22年度の活動方針並びに収支予算の議決が諮られ、満

場一致で可決した。

研究会では、須藤勝夫県農林水産部農村整備担当技監兼農村計画課総括課長が「農業農村整備の動向について」と題し、担い手への農地利用集積や水田の汎用化を推進するためのほ場整備率の向上

などの本県が抱える課題や、働きやすい生産基盤づくりや快適で住みよい生活環境づくりなどの“希望郷いわての農業農村整備計画”の実現について、発表した。

研究会を終え、議員らは今後の農業農村整備計画の重要性を再認識していた。

県営経営体育成基盤整備事業 増沢東部地区完工

▶ 効率の良い「地域ぐるみ農業」を目指す

増沢東部地区完工式典実行委員会（委員長：菊池博明）は、事業の完了に伴い3月2日、増沢東部地区内にて県や市などの関係者約60名が参加し、記念碑除幕式をとり行い、奥州市江刺区内のホテルにて完工記念式典を行った。

式典で、菊池委員長は「当地区は、区画が小さく近年の大型農業機械利用に対応できず、農

作業の受委託、農地の流動化に多大な支障が生じ、農地の荒廃が進んでいる状態であった。本事業により地域の生産基盤、生活環境が整備された。未来に亙り希望の持てる地域営農を構築し、記念碑に刻んだ「豊穰の郷増沢」の名が永久に引き継がれるよう鋭意努力していく所存である」と挨拶した。



本事業は、平成12年に採択され、51haの区画整理を行い、10年余の歳月を費やしこの度完工をむかえた。

本事業の完工により、農業生産性向上による新たな地域営農への取り組みが期待される

平成21年二戸管内 役員等研修会実施

▶ 適正な土地改良区運営に向けて

二戸地方振興局農村整備室が主催する平成21年度二戸管内役員等研修会が、2月23日、二戸地区合同庁舎において開催され、土地改良区役員ら31名が参加し研修内容について理解を深めた。

研修の冒頭、挨拶に立った千田良文農村整備室長は「農村整備室が実施した土地改良区検査の状況を見ると、二戸管内の土

地改良区共通の課題があるように見受けられる。本研

修会を課題解消への取組の参考として欲しい」と述べた。

研修は、内部監査のあり方や未収賦課金への取組、維持管理計画書の整備促進など県の土地改良区検査の結果を踏まえたテーマのほか、管内改良区のア



ドブド協定の事例発表、意見交換などが行なわれた。

管内の土地改良区の抱えている問題を見据えた研修内容に、参加者は真剣な表情で研修を受けていた。